

発行所 〒802-8651
北九州市小倉北区紺屋町13-1
(財)毎日新聞西部社会事業団
木村 雄峰
電話 093-551-6675 ファクス 093-541-8009
E-mail: s-maisw@cotton.ocn.ne.jp
郵便振替 01770-2-40213
URL http://www.mainichi.co.jp/seibu_shakaijigyo/

5月31日に開いた第2回役員会



【障害者福祉事業】助成事業が中
今年度は指定寄付事業や児童福祉事業、医療福祉事業、歳末事業など、前年度並みの約50件、総額約3000万円の事業を実施する。このほか役員の辞任に伴い、理事1名と評議員2名を新たに選任した。

【指定寄付事業】募金の使途が限定された事業で、海外難民救済や小児がん征圧募金のほか、大規模災害が発生した場合に被災者救済金を募集し、日本赤十字社などを通じて配分する。
【児童福祉事業】入学・卒業の祝い品プレゼントをはじめ、施設や母子家庭の子どものためのボウリング大会やクリスマス会、研修会、例年通り助成するほか「母の日・父の日募金」を財源に、児童養護施設退所後の子どもたちの自立援助ホームの新設・運営に資金援助する。

【障害者福祉事業】助成事業が中心で、障害者を対象にした交流キャンプや水泳、風船バレーボール、障害者ボウリング大会、車椅子テニスなどのスポーツ大会、盲学校弁論大会、養育院などの各種文化行事など、毎年20件以上の催しが予想され、例年通り助成する。
【医療福祉事業】前年度に引き続き、小児がんなどで入院する子どもたちの付き添い家族に、宿泊施設を提供するボランティア団体に助成する。
【高齢者福祉事業】前年度に引き続き北九州市の「認知症・草の根ネットワーク」の運営資金を助成する。同団体は「認知症になっても安心して暮らせるまちづくり」を目指し、08年7月に設立された。
【福祉団体助成事業】福岡、北九州、佐賀、大分の「いのちの電話」やホームレス自立支援団体、交通遺児会を支える会、九州盲導犬協会、あしなが育英会など前年度と同じ16団体に助成する方針。
【歳末事業】歳末助け合い募金「愛

10年度の事業規模は3千万円

理事会・評議員会で承認

毎日新聞西部社会事業団(理事長、田中青史・毎日新聞西部本社代表)は3月と6月、北九州市小倉北区で2010年度の定例理事会・評議員会を開催、10年度事業計画案と事業予算案のほか、公益財団法人への移行実施計画案、09年度の事業報告案、収支決算案を審議し、原案通り可決・承認した。

新役員3氏を選任

今年度は指定寄付事業や児童福祉事業、医療福祉事業、歳末事業など、前年度並みの約50件、総額約3000万円の事業を実施する。このほか役員の辞任に伴い、理事1名と評議員2名を新たに選任した。

新役員は次の皆さん(敬称略)
理事Ⅱ小野哲也(西鉄バス北九州社長)▽評議員Ⅱ岩松城(毎日新聞西部本社編集局長) 寺本孝治(同広告局長)

今年度の事業計画は 次の通り

2009 平成21年度収支決算 単位:円

	09年度決算	08年度決算	決算比
I 収入の部			
基本財産運用収入	180,000	180,327	▲10,327
特定資産運用収入	5,014,165	6,575,937	▲1,561,772
寄付金収入	55,480,563	48,374,288	7,006,275
指定寄付金収入	20,270,838	11,571,063	8,699,755
一般寄付金収入	9,991,110	10,091,815	▲100,705
書籍収入	21,792,757	23,111,390	▲1,318,633
雑収入	9,823,005	4,427,139	5,395,864
収入合計	70,447,731	59,537,891	10,910,040
II 支出の部			
事業費支出	44,208,820	44,748,409	▲539,589
指定寄付事業費	15,147,486	10,251,525	4,895,961
児童福祉費	4,853,820	5,132,200	▲278,380
障害者福祉費	2,111,532	2,862,130	▲750,598
高齢者福祉費	300,500	300,500	0
医療福祉費	300,000	300,000	0
福祉団体助成費	4,457,455	4,875,270	▲417,815
啓発事業費	583,200	197,510	385,690
歳末事業費	12,945,887	14,502,802	▲1,556,915
毎日社会福祉振興費	1,540,828	1,595,162	▲54,334
管理費支出	17,115,996	14,980,835	2,134,763
支出合計	77,115,996	74,980,835	2,134,763
収支差額	53,332,133	44,556,856	8,775,277
III 投資活動収支の部			
投資活動収入	0	0	0
投資活動支出	0	0	0
投資有価証券運用損失	19,191,509	330,214	▲19,191,509
投資有価証券等売却支出	1,000,000	1,000,000	0
退還給付引当資産取得支出	20,191,509	1,330,214	18,861,295
投資活動支出合計	20,191,509	1,330,214	18,861,295
投資活動収支差額	▲20,191,509	▲1,330,214	▲18,861,295
【総合収支】			
当期収支差額	▲9,100,064	3,209,543	▲12,309,627
前期繰越収支差額	49,994,772	46,785,229	3,209,543
次期繰越収支差額	40,894,688	49,994,772	▲9,100,064

09年度事業報告・決算も 6月の役員会で可決

09年度の事業報告と収支決算は5月31日の第2回理事会・評議員会で審議、いずれも原案通り可決・承認された。09年度は一般福祉事業が49件あり、うち4件が名義後援。

同決算は、収入は柱となる寄付金収入が5548万563円、総額7044万731円。支出は海外救援金など指定寄付事業1514万400円、福祉団体助成費445万7455円、事業費支出は4420万8820円、管理費支出は1711万5996円、投資活動支出は2019万1509円、投資活動収入は0円、投資活動支出は2019万1509円、投資活動収支差額は2019万1509円、当期収支差額は910万627円、前期繰越収支差額は4999万4772円、次期繰越収支差額は4089万4688円。

3月8日に福岡本部であった贈呈式



西部社会事業団の募金贈呈式は3月8日、毎日新聞福岡本部であり、以下の団体に配分した。

「ここにニスマイルキャンプ in 九州」実行委員会▽子ども医療ネットワーク▽久留米大学病院親の会「木曜会」▽ボランティアグループ「ばんぶきん」▽ペンギンの会▽九州がんセンター▽小児科親の会「大きな木」▽福岡ファミリーハウス

■国内外の災害に救援金相次ぐ

09年度は、国内で被災者救援の募金を呼びかける規模の大きな災害は、幸いにも発生しなかった。ただし、7月に山口県防府市や福岡県内などで豪雨による土砂災害などが起き、犠牲者も出た。新聞紙面やホームページで募金の呼び掛けはしなかったものの、災害発生直後から当事業団には8件・69万5500円の救援金が寄せられ、募金者の指定に従い日本赤十字社の山口・福岡両県支部に贈った。

一方、海外では9月、サモアとスマトラで相次いで大地震が発生したほか、年明けにはハイチ地震、さらにチリ地震と大災害・津波が発生。こうした事態を受け、新聞などで被災者救援の協力を呼びかけた結果、サモア地震救援には467件・285万7927円(西部管内55件・30万8919円)▽スマトラ地震救援には736件・516万8059円(同77件・40万7091円)の募金が寄せられた。またハイチ地震救援には4046万8446円(同330件・946万8446円)▽チリ地震救援には約660万5000円(同12件・511万1398円)が寄せられました。これらの浄財はユニセフや国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)、日本赤十字社などを通じて救援金として被災地に届けた。

西部社会事業団への救援金は以下の機関・団体に配分した。

スマトラ地震救援金 40万7091円＝日本赤十字社▽日本ユニセフ協会(ユニセフ)
サモア地震救援金 30万8919円＝日本赤十字社▽日本ユニセフ協会(ユニセフ)
ハイチ地震救援金 946万8446円＝日本赤十字社▽国連UNHCR▽世界食糧計画(WFP)▽AMDA▽国境なき医師団▽JEN▽ジャパン・プラットフォーム▽ワールド・ビジョン・ジャパン▽ハイチ友の会▽クリスト・ロア宣教師道女会
チリ地震救援金 511万1398円＝日本赤十字社▽ジャパン・プラットフォーム▽AMDA

指定寄付金を国際機関や団体に配分

総額で5546万5000円にのぼった09年度の寄付金収入は、募金を寄せていただいた皆様の指定に従い、海外難民救援事業、小児がん征圧事業、災害被災者救援事業、一般福祉事業などに関係する国際機関や福祉団体などに配分した。特に昨年度はスマトラ地震、サモア地震、ハイチ地震、チリ地震などの地震災害が海外で多発し、今年度に入ってから中国・青海省地震が発生したため、災害救援金が相次いで寄せられた。

■海外難民救援キャンペーンにも

毎日新聞社会事業団が、毎日新聞紙面と連動させて1979年から「飢餓・貧困・難民救済キャンペーン」としてスタートした海外救援事業は09年でちょうど30年を迎えた。当年度は6月、大阪本社の記者とカメラマンをコンゴに派遣。「コンゴ共和国から」と題して、地域紛争により故郷や家を追われた国内避難民の現状をルポして紙面で連載し、大きな反響を呼んだ。西部社会事業団には279件(前年度452件)、171万5000円(同378万円)の海外難民救援金が寄せられ、昨年度に比べて募金件数・募金額は減少したが、これらの浄財は東京、大阪両事業団とともに、日本ユニセフ協会や国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)などの国際機関や「国境なき医師団」「ペシャワール会」などのNGOなど33団体に総額2070万円を届けた。キャンペーン当初からの救援金の総額は15億3823万8344円となった。

宮崎県・口蹄疫被害義援金 受け付けています

毎日新聞社と毎日新聞社会事業団は、口蹄疫被害が拡大する宮崎県の畜産農家を支援するため、義援金を受け付けています。寄せられた義援金は宮崎県の共同募金「宮崎県口蹄疫被害義援金」に寄託します。「口蹄疫」と明記して下記へ郵便振替か現金書留でお願いします。送料はご負担をお願いします。

〒802-8651
北九州市小倉北区紺屋町13-1
毎日新聞社会事業団「口蹄疫」係
(郵便振替) 01770-2-40213